

公益財団法人長浜曳山文化協会
担当：中島 誠一 小池 充
TEL：65-3300 / FAX：65-3440

企画展「曳山関連資料展」の開催について

公益財団法人長浜曳山文化協会（理事長：高橋政之）では、平成26年7月7日（月）～7月27日（日）にかけて、企画展「曳山関連資料展」を開催します。動く美術館と呼ばれる豪華な曳山。壽山・猩々丸の胴幕や見送幕など曳山に関連する資料を展示いたします。

今回の展示が初出陳となる翁山の山曳き法被（看板）は翁山を曳行する人が着たもので、背の上部に大きく三本爪の竜顔を、下部には尾を描いており、表には雲間に竜の胴部を表現しています。長浜曳山祭は法被のことを看板とも呼びます。これはそれぞれの山組を象徴するデザインからそう呼びます。

本展示では、長浜曳山祭や曳山4基公開展示以外では間近で見られない貴重な資料を展示しております。曳山の魅力をより一層近くに感じていただければ幸いです。

記

1. 展覧会名 企画展「曳山関連資料展」
2. 開催期間 平成26年7月7日（月）～7月27日（日）
3. 会場 曳山博物館（元浜町）
4. 開館時間 9時～17時（入館16時30分）
5. 料金 大人600円、小中学生300円 *長浜市・米原市の小中学生は無料
6. 休館日 会期中無休
7. 展示資料 別紙のとおり

以上

【出陳資料】

1) 壽山洞幕「竹林七賢人の図」

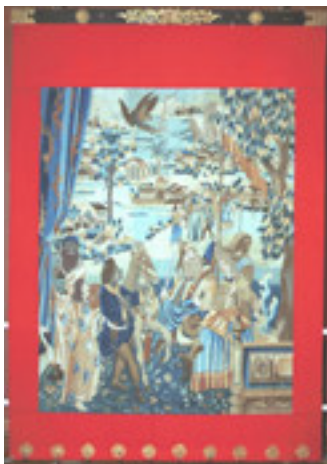


近代

壽山大手町組蔵

洞幕は曳山の側面に掛けられ楽屋を構成する装飾品である。巾約90cmの紋織の面幕を2枚継ぎ洞幕に仕立て上げたもの。5面で構成され、紺地空間を見事に表現し、竹林の七賢人を織り成した優品。同じ紋織で織られたと推測される見送仕立の幕が、伏見稻荷大社の旧祭礼と大垣祭の旧祭礼風景の写真に見られる。

2) 壽山見送幕「西洋故事の一場面」



17世紀前半～19世紀当初

壽山大手町組蔵

曳山の背面に掛ける大型の毛綴織懸装品。欧風の武将らしい者に、矛を持つ従者、馬を曳く従者のほか、夫人や侍女がいて、上部には鳥が飛び地上には美しい草花が咲き、遠景には欧風の建築物が点々と見えて、のどかな風情である。一見欧風の構図であるが、製作地は使用された染料から日本製であろう。架木中央に出八双型牡丹唐草、左右両端に出八双型飾金具を付け、見送幕の下部には、十個の総懸金具を付ける。

なお見送幕箱蓋更墨書銘に「文政甲申七年九月大手町組」とあるところから、文政7年（1824）の新調であることが判る。

3) 猩々丸洞幕「昇降竜図」



大正15年復元新調

縹子織

猩々丸船町組蔵

洞幕は曳山の側面に掛けられ楽屋を構成する装飾品である。紺の縹子地に、金糸の昇り竜・降り竜を四頭交互に織り出したもの。縹子織による滑らかな光沢が特徴である。昇降竜は壽山の前柱にも用いられているが、竜はこの一対の組み合わせで表現されていることが多い。これは海中に潜る竜もいれば天井へ昇る竜もいるという習性を表現している。なお、竜は曳山各分のデザインとして多く用されているものの一つである。

4) 猩々丸山曳き法被^{はっぴ}看板



近代

猩々丸船町組蔵

猩々丸を曳行する人が着た法被（ハッピー）。長浜曳山祭では法被のことを看板（カンバン）とも呼ぶ。それぞれの山組を象徴するデザインであるところから、こう呼ばれるのであろう。逆巻く怒濤、背に大きくイカリ、下部に舟形の曳山にふさわしいデザインである。

5) 猩々丸模型



一基

安政三年（1774）頃

猩々丸船町組蔵

猩々丸の五分の一の白木模型。模型本体は、現山の建造時に作られたとみられるが、増設されたことがない亭が、模型に後補されている点は注目すべきである。このことから猩々丸でも、一時期亭建造が計画されていたことが知られる。

6) 猩々丸楽屋襖「老松図」



三面

江戸時代後期

猩々丸船町組蔵

楽屋襖は曳山の楽屋の奥の建具であり、通常外からは見えない。本資料は画面いっぱいに枝を広げた松を描き、幹の所々に苔を配することによって、老松をあらわしている。楽屋襖に老松を描くのは、能舞台の影響を受けているといわれ、曳山の舞台でも能が演じられていたという伝承がある。

7) 翁山山曳き^{はっぴ}法被 看板



近代

翁山伊部町組蔵

翁山を曳行する人が着た法被（ハッピー）。長浜曳山祭は法被のことを看板（カンバン）とも呼ぶ。それぞれの山組を象徴するデザインであるところから、こう呼ばれるのであろう。翁山にはこの山曳法被が本資料も含め4着傳承されているが、背の上部に大きく三本爪の竜顔を、下部には尾を描き表には雲間に竜の胴部を表現し一頭の竜の姿を表している。つまり、一匹の竜がハッピーの表と後に描かれているのである。なお、竜の爪は中国では5本、朝鮮では4本、日本では3本に描かれる。

【出陳資料目録】

| 資料名 | 数量 | 制作時期 | 所蔵者 |
|--------------------|----|---------------|---------|
| 1) 壽山洞幕「竹林七賢人の図」 | 一枚 | 江戸時代後期 | 壽山大手町組蔵 |
| 2) 壽山見送幕「西洋故事の一場面」 | 一枚 | 17世紀前半～19世紀初頭 | 壽山大手町組蔵 |
| 3) 猩々丸洞幕「昇降竜図」 | 一枚 | 大正15年 復元新調 | 猩々丸船町組蔵 |
| 4) 猩々丸山曳き法被（看板） | 一着 | 近代 | 猩々丸船町組蔵 |
| 5) 猩々丸模型 | 一基 | 安政三年（1774）頃 | 猩々丸船町組蔵 |
| 6) 猩々丸楽屋襖「老松図」 | 三面 | 江戸時代後期 | 猩々丸船町組蔵 |
| 7) 翁山山曳き法被（看板） | 一着 | 近代 | 翁山伊部町組蔵 |

以上7件